

## 中国江南地区における法舍利埋納遺跡調査記

劉 海 宇<sup>※</sup>

実施日 2017年7月3日～9日

参加者 菅野成寛（岩手大学平泉文化研究センター）

劉 海宇（岩手大学平泉文化研究センター）

これまで、平安末期の日本社会を形作った思想的特質は、「末法思想」を基盤とした阿弥陀浄土信仰や経塚信仰によって代表されてきた。なかでも12世紀を中心とした経塚の造営は、九州地域から北海道にまで広範に波及した列島の規模での現象であることが近年新たに判明した。経塚信仰は、京都を中心とした一部の上層階級によって担われた阿弥陀浄土信仰や密教信仰をはるかに凌駕する、平安時代の信仰文化を代表する一大ムーブメントであることが明らかになりつつある。

そもそも経塚信仰とは、僧侶の指導下、写経した経典ほかを山腹や丘陵上の勝地に埋納して供養する一連の信仰の営為を指すが、その創始については長らく日本成立説が定説的位置を占め続けてきた。しかるに近年、日本の経塚の供養品と中国の仏舎利塔の納入品とが一致することから、列島の経塚の起源を中国大陸に求める研究潮流が兆しつつある。

そこで、日本経塚の起源と源流を東アジア社会における仏教文化史的な動向のなかに位置付けるため、中国江南地区（主に浙江省と江蘇省）における法舍利埋納遺跡を調査することにした。

2017年7月3日（月）

12:30羽田空港合流後、14:30発のMU538便で16:40上海虹橋空港 T1に到着後、荷物を取り、地下鉄で虹橋駅へ移動。18:28上海虹橋駅発の高速列車で杭州東駅へ移動。杭州東駅には19:28に到着、その後、駅構内にある神州レンタカーカウンターで車を取り、杭州市内の潮王大酒店へ移動。ホテルには20:20チェックインし、その後夕食は近くの「小紹興」で杭州料理をとった。

2017年7月4日（火）

08:30潮王大酒店から出発し、浙江省博物館武林分館へ。09:00着、浙江省博物館歴史部王宣艶氏が迎えてくださった。簡単な挨拶をした後に、早速博物館の陳列を見学、常設展特に銭弘俶塔（呉越国王・銭弘俶が955と965年二度にわたって『宝篋印経』を安置するための銅製・鉄製の経筒）、1966年浙江省瑞安県瑞光塔から発見された金銀字混書の法華経（1033年成立）、さらに浙江省省内の仏塔の地宮から出土したもの（例えば、天台山飛霞塔の金銅塔）などが注目される。ちょうど、特別展としてインドと中国の仏像特別展が開催されており、古代インドと中国の仏像を比較しながら見

※ 岩手大学平泉文化研究センター

ることができ、参考になった。

10:45王氏と別れて、浙江省文物考古研究所へ移動。研究員で中国古陶磁学会副会長の沈岳明氏が待っている。沈氏の研究室で越窯や龍泉窯の考古新発見などについて情報収集した。1月にテレビ岩手が沈氏を取材して作成したDVDを渡した。12:00いつもの勝利河美食街にある沈家門小海鮮で昼食をとった。

13:15沈氏と別れて、一路高速道路で天台县へ。16:30天台县博物館到着。天台博物館周則貴副館長と許緒祿氏が迎えてくださった。まず陳列を見学、その後2Fの応接室へ、寒山拾得の話などをしながら、おいしい天台茶をいただいた。17:45天台賓館へチェックイン。18:30博物館に戻り、周則貴副館長・許緒祿氏と合流して夕食へ。

2017年7月5日（水）

08:30周則貴氏・許緒祿氏と天台賓館で合流。ホテルを出発し、天台山の中腹にある智者塔院へ。紆余曲折なる山道を走ること30分、やっと到着。智者の肉身塔及び唐代元和6年の「智者大師修禪道場碑銘」を見学。また近くに日本比叡山延暦寺によって建てられた日本天台宗開創1200年記念塔（1987年）が立っている。徒歩で佛隴にある修禪寺遺跡へ行き、現在再建の工事中。近くに溪流があり、『法苑珠林』にいう「地平泉清」のところ。周則貴氏より北宋時代の摩崖「佛隴」と落款「指堂」を案内し確認した。落花生畑に除草している81歳のおじいさんに会い、許可を取り、楊梅<sup>ヤマモモ</sup>をとって試食した。

10:30下山、国清講寺へ。まず住職方丈可明に表敬訪問した。可明方丈は、2003年と2016年世界遺産登録5周年の際、中尊寺へ2回訪問したことがあり、中尊寺の貫主山田氏・平泉町長青木氏・前町長高橋氏を知っているそうだ。名刺及び記念品（中尊寺の華鬘及び日本のお菓子）を送り、返礼として可明方丈が編集した『天台九祖伝』と越窯青磁の高炉を頂いた。菅野成寛氏は、30年前と15年前に国清寺に訪問したことがあり、今回は3回目、国清寺が早いうちに世界遺産登録に登録されるように、とあいさつした。可明方丈は、世界遺産を登録しなくても、ちゃんと天台宗の仏教遺産を守り、現在は国清寺の入場料をすべて免除したなどの話をした。30分前後表敬したのち、志隆禪師に案内してもらい、境内を見学した。

12:00国清寺を出て、隋塔に寄って、和合餐館で昼食をした。13:00周則貴副館長・許緒祿氏と別れて出発。一路高速で、寧波へ。途中、大雨に遭遇。寧波東インターで降りてから、世紀大道が工事中で、東環状線へ迂回して寧波大学賓館に16:30到着。17:30寧波大学楊建華先生がホテルへきて、ホテル内のレストランで夕食をとった。

2017年7月6日（木）

08:30寧波大学賓館で楊建華先生と合流して出発。09:10薬行街着、宋代の吉祥寺の場所とされる場所を確認、現在は「国医堂」・「薬皇殿」となっている。石碑「海宇靖平」がある。中尊寺所蔵する宋版一切経に「明州城下吉祥寺」が押印されている。09:25出発、10:00寧波市博物館着。12:00まで見学。昼食は博物館近くの「甬蜜秘境」で寧波創作料理。

13:15楊建華先生と別れて、高速で一路宜興へ。途中、太湖の畔を通過して、17:45宜興国際飯店に到着。このホテルのサービスおよび施設は今回の旅で最高だった。夕食は近くの「私房菜」で宜興料理。

2017年7月7日（金）

08:45宜興国際飯店出発、09:00宜興博物館着。浙江省博物館の王宣艶氏と倪毅氏はすでに宜興博物館の南門で待っている。まず宜興博物館の朱軒林館長助理と会い、簡単なあいさつの後に2F

の応接室へ案内された。法蔵寺転輪蔵「龍宮」から出土した経巻（金銀字経を含む、1105年納入）を特別見学。11：10まで見学。その後、常設展の展示室にある漆器の経塔・銀製の供養品等を見学。11：45昼食。13：40展示室に戻り、韓瓶を撮影。

宜興博物館で望外の収穫があり、次の2字を勉強した。一つは、「沆」字であり、《説文》に“水厓枯土也”と解釈される。いま一つは、「𪛗」字で、『広韻』に“山名。在溧陽縣”とあり、『字彙』に『於口切、音毆』と注音する。

14：00宜興博物館を出て、一路高速で杭州へ。17：00杭州東駅に到着、レンタカーを返還。チケットを予約しなかったため、20：55発のチケットしか買えなかった。高速列車で虹橋駅着後、タクシーを拾うにも1時間ぐらい待たされて、結局ホテル上海国際飯店に到着したのは夜の11：45だった。

2017年7月8日（土）

09：40上海国際飯店から出発、徒歩で上海博物館へ。10：00市政府に向かう博物館の西北門に着くと、上海博物館考古部の王建文氏が待っている。青龍鎮隆平寺塔地宮出土遺物展は終了したため、見学できなかった。王氏はほかの用務があるため、自分たちで常設展の青銅器・陶磁器・書道・印章展示室を見学した。12：00合流、近くの「望湘園」で湖南料理を満喫した。

午後、福州路にある上海書城で書籍及び宣紙を購入し、ホテルへ戻って一服した後、17：30王宝和大酒店へ王建文氏と夕食した。

今回、中国江南地区（主に浙江省と江蘇省）における法舍利埋納遺跡の調査を通して、経典を塔や経蔵の下に納入した五代期（10世紀）から北宋期（11～12世紀）の中国法舍利埋納の発想が、日本の経塚信仰に与えた影響関係を解明する上で非常に参考になった。



銭弘俶塔



銭弘俶塔に納入された宝篋印経



天台县博物館



天台山飛霞塔の金銅塔



宜興博物館で遺物調査



宜興法蔵寺転輪蔵地宮に埋納された経筒